

ファミリーハウスを利用された方から

感謝のお手紙をいただきました

大谷 貴子様 (埼玉県)

母に未破裂脳動脈瘤が見つかったのは五年前のことでした。特に自覚症状がないものの、頭の中に時限爆弾を抱えているような気持ちでした。しかし、心も体もまるごと受け止めてくださる医師に巡り会い、北海道通いが始まりました。半年に一回の検査で、段々、母の脳動脈瘤の形や大きさが変わってくるのがわかり、いよいよ手術をしなければならなくなりました。

しかし、手術となるとやはり最短でも二週間の入院。母は七十八歳高齢で少しでも障がいが残れば二週間以上の入院も覚悟しなければなりません。

まず私は、病院から徒歩圏内のホテルを探しました。しかし、札幌市内とは言え病院は市街地から少し離れていてホテルは見当たりません。そこで、骨髄バンクのボランティア仲間を頼り「地の利がわからないのでバスや地下鉄などの乗り換えなしのホテルを紹介して欲しい」とお願いしました。そうしたら、すぐにファミリーハウスの登録先一覧表が送られてきました。

実は私自身、白血病を患った経験があり、その後、多くの患者さんご家族の宿泊施設の紹介をしてきた体験から、愛知県でのファミリーハウスのお手伝いをしてきました。それにもかかわらず、北海道でのファミリーハウスのことをすっかり失念していたのです。それだけに「そうか！ファミリーハウスがあったか！ありがたい！ありがたい！・・・と叫んでいました。

結局、病院からバスで十五分。運動のために歩いてみると五十分で行ける距離。病院からの最終バスも二十二時過ぎまでありました。ホテルに着いてもゆっくり休むことができ、隣にはコンビニでお酒も売っている(笑) 本当に便利でした。そして何より格安で「いつでもらっしゃい！」「お帰りなさい！」といつも笑顔でした。

母の手術も無事に終わったことをフロントに報告すると、口々に「良かったね！」「安心ですね！」と声を掛けてくれ、ホッと心温まる一瞬でした。

本当に何から何までお世話になりました。心から感謝しています。お陰さまで母の次回診察は「来年の夏で良いよ！」と主治医が言ってくれました。

ありがとうございます！
ありがとうございます！



■ご寄付・助成金をいただきました

- | | |
|----------------|-------|
| 我汝会さつぽろ病院 様 | 一万円 |
| 大谷 巻枝様 | 一万円 |
| 株式会社オール様 | 一万円 |
| 札幌信用金庫社会福祉基金 様 | 五万円 |
| 赤い羽根共同募金会 様 | 七万五千元 |
- ありがとうございます

「そらぷちキッズキャンプ」を

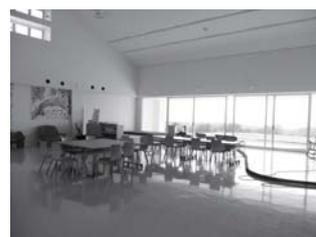
ご存知ですか？

■「そらぷちキッズキャンプ」のコンセプト
自然体験を通じて、病気とたたかう子どもたちとその家族の「QOL(生活の質)の向上」や「心のケア」に寄与することを目的としています。具体的には、病気とたたかう子どもたちとその家族に対し、自然の中で安心して安全に過ごしてもらうため、特別に配慮されたキャンプ施設や自然体験プログラムを提供します。

また、地元(滝川市)の医師や看護師による医療的なバックアップ体制が構築されているため、病気の子どもの家族が安心して「楽しい思い出」「すばらしい仲間」「生きる力」「希望」を得ることが出来ます。



昨年はボランティア研修で施設見学



大ホール(食堂の機能があります)



そらぷちキッズキャンプ
マスコット
(ファミリーハウスボランティアも手作りで応援しています)



宿泊棟にある二段ベッド

所在地 079-0461 滝川市江部乙町丸加高原 464-1 公益財団法人 そらぷちキッズキャンプ